

第482回

広島大学医学集談会

(平成16年6月3日)

—学位論文抄録—

1. A comparison of the effects of prolonged (>10 hour) low-flow sevoflurane, high-flow sevoflurane, and low-flow isoflurane anaesthesia on hepatorenal function in orthopaedic patients
(低流量セボフルラン, 高流量セボフルラン, 低流量イソフルランによる10時間を超える長時間の麻酔が整形外科手術患者の術後肝腎機能に与える影響の比較検討)

福田 秀樹

展開医科学専攻病態制御医科学講座 (麻酔蘇生学)

セボフルラン (S) が炭酸ガス吸収剤と反応して生成されるコンパウンド A (CA) は新鮮ガス流量

(FGF) が少ないと吸入濃度が高くなる。この研究では整形外科待機手術患者25名を無作為にSの低流量群 (LFS 群, CA 多量吸入) と高流量群 (HFS 群, CA 少量吸入), イソフルランの低流量群 (LFI 群, CA 生成なし) に分け, 10時間超の長時間麻酔が肝腎機能に与える影響を比較検討した。FGF を HFS 群で5, その他は1L/分とした。患者背景に群間差はなく, LFS 群の CA 吸入量は 359.8 ± 106.1 (平均±標準偏差) で, HFS 群は 61.1 ± 29.3 ppm・時であった。3群ともクレアチニンクリアランスは正常に推移した。血漿中と尿中の α グルタチオンSトランスフェラーゼは術後一過性に上昇したが, 群間差は認めなかった。以上により, いずれの麻酔法でも術後一過性に肝腎障害をきたすが, その程度は同等であることが示唆された。

第483回

広島大学医学集談会

(平成16年7月1日)

—学位論文抄録—

1. Clinical and molecular pathologic features of colorectal serrated adenoma

(大腸鋸歯状腺腫の臨床および分子病理学的特徴に関する研究)

- 1) Clinicopathologic and endoscopic features of colorectal serrated adenoma: differences between the polypoid and superficial type

(大腸鋸歯状腺腫の臨床病理学的特徴: 隆起型・表面型の相違を中心に)

- 2) Human telomerase reverse transcriptase (hTERT), p53 and Ki-67 expression, and apoptosis in colorectal serrated adenoma

(hTERT, p53, Ki-67 発現とアポトーシスからみた大腸鋸歯状腺腫の特性)

岡 志郎

創生医科学専攻先進医療開発科学講座 (分子病態制御内科学)

【目的】鋸歯状腺腫 (SA) の発生・進展経路に関しては hyperplastic polyp-SA carcinoma sequence が推測されているが, その内視鏡的特徴所見, 病理組織診断基準, 臨床的位置づけは明らかでない。

【対象と方法】SA を対象に, 肉眼型 (隆起型, 表面型) 別に臨床病理学的検討を行った。また, HP, SA, tubular adenoma (TA), carcinoma in situ (CIS) を用いて, hTERT-mRNA, p53, Ki-67 発現および apopto-